

# まえがき

2007年7月16日10時13分頃、新潟県上中越沖を震源とするマグニチュード（M）6.8（暫定値）の地震が発生した<sup>1)</sup>。本地震による最大震度は、新潟県長岡市ほかで観測された震度6強である。気象庁は7月16日にこの地震を「平成19年（2007年）新潟県中越沖地震」と命名した。この地方で震度6弱以上の揺れが観測されたのは、2004年10月23日に新潟県川口町で震度7を観測した平成16年新潟県中越地震（M6.8）以来である。本震のマグニチュードが同一である平成16年新潟県中越地震と比較すると、今回の地震の余震の発生回数は少なく、12月4日現在、最大震度5弱以上を観測した余震は、新潟県長岡市ほかで震度6弱を観測した7月16日15時37分頃（M5.8）の1回である。また、消防庁の取りまとめによると、12月4日9時30分現在、地震による死者は15名、負傷者は2,345名、住家被害は、全壊1,259棟、半壊5,487棟、一部破損34,485棟に上っている<sup>2)</sup>。

今回の地震により被災した地域には平成16年新潟県中越地震の被災域と重複する地域があり、僅か2年半余りの間に、再び地震により多数の人命が失われるとともに、建物や土木施設にも多くの被害が生じた。地震後、国土技術政策総合研究所、土木研究所、建築研究所及び港湾空港技術研究所では連携して、関係する分野ごとに調査チームを編成の上、7月16日から10月31日までの間に延べ103名の職員を順次派遣し、現地における技術支援、調査等に当たった。

本資料は、地震直後の現地調査結果、また、その後実施された調査・研究結果を現時点で取りまとめ、今後の更なる調査研究に活用できるようにするとともに、収集した調査資料の保存を図ることを目的としたものである。したがって、現在、継続中の研究成果の公表については、別の機会に譲ることにしたい。

## 参考文献

1) 気象庁ホームページ：

[http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/2007\\_07\\_16\\_chuetu-oki/index.html](http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/2007_07_16_chuetu-oki/index.html)

2) 消防庁ホームページ：

<http://www.fdma.go.jp/detail/751.html>